

平成25年度第2回尾張旭市子ども・子育て会議会議録

- 1 開催日時
平成26年2月26日（水）
開会 午後1時30分
閉会 午後3時20分
- 2 開催場所
尾張旭市役所 3階 講堂2
- 3 出席委員
林陽子、小川百合子、加藤多美、秋田啓子、長谷川正、村瀬美根代、竹門宏美、
秋山浩二、恩田路子、高橋秀雄 10名
- 4 欠席委員
金森俊輔、山田俊樹、近藤信綱、藤田佳代 4名
- 5 傍聴者数
1名
- 6 出席した事務局職員
健康福祉部次長 吉田和仁、こども課長 萬谷久幸
子育て支援室長 阿部智晶、こども課長補佐兼こども未来係長 松原芳宣
こども課こども係長 浅野哲也、こども課保育係長 田島祥三
こども課こども未来係主事 伊藤維希、
株式会社ぎょうせい主任研究員 馬場敏
- 7 議題等
 - (1) アンケート調査結果について
 - (2) 教育・保育提供区域の設定について
 - (3) 子ども・子育て支援事業計画のイメージについて
- 8 配布資料
 - ・アンケート調査結果について・・・資料1
 - ・アンケート調査結果の概要・・・資料1-2
 - ・子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査・・・資料1-3
(就学前児童保護者用・小学生児童保護者用)
 - ・教育・保育提供区域の設定について・・・資料2
 - ・子ども・子育て支援事業計画のイメージについて・・・資料3
 - ・子ども・子育て関連3法について・・・参考資料1
 - ・基本指針の概要（案）・・・参考資料2
- 9 会議の要旨

健康福祉部次長	<p>平成25年度子ども・子育て会議を開催させていただきます。健康福祉部次長の吉田と申します。宜しくお願い致します。</p> <p>本日の会議につきまして、まずお手元に配布しております次第に沿って進めさせていただきますのでよろしくお願い致します。</p> <p>今現在の出席委員は9名で、過半数の出席を頂いておりますので、本会議条例第6条第2項の規定による定足数に達しているということで、会議を開催させていただきます。</p> <p>前回もご説明させていただきましたが、この会議は原則公開ということですので、傍聴席を設けております。また、会議録を作成しまして、市のホームページ等で公開していきますので、委員の皆さまにはご了承頂きますよう、宜しくお願い致します。</p> <p>また、前回の会議におきまして、会長の職務代理者として林会長より山田委員のご指名がございましたが、当日山田委員が欠席しておりましたので事務局の方で確認をさせていただきましたところ、山田委員より職務代理者を引き受けて頂いたことをご報告させていただきます。</p> <p>それでは本日の議題に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>それでは以降の会議の進行につきましては、議長であります林会長にお願いしたいと思っておりますので、宜しくお願いします。</p>
会長	<p>みなさま、こんにちは。子ども・子育て会議は、子育て・子育ての方向性と骨組みを作っていく会議です。皆さまのご意見、ご助言を頂きながら進めてまいりたいと思っております。大体2時間程度を目途に進めてまいりたいと思っておりますので、スムーズな会議の進行にご協力をお願い致します。それでは、これより私の方で会議を進めさせていただきます。早速議題に入ります。</p> <p>まず、議題でございますが、昨年12月に実施して頂きましたアンケート調査の結果について、事務局よりご説明を宜しくお願い致します。</p>
事務局	(資料1により説明)
(株)ぎょうせい	(資料1-2により説明)
会長	<p>ありがとうございました。アンケート調査結果の速報について、暫定的なものではありますが報告をして頂きました。今の説明について、資料の数値についてでも結構ですので、何かありましたらご意見、ご質問を頂ければと思います。</p>

高橋委員	<p>まず、今回のアンケートは基礎的な調査でこれを基にまた二次調査をしていくと聞いたのですが、アンケートの回収率も60%近く、結構集まったと思います。ただ、第一弾の報告ということですが、単純集計でも全項目の集計は頂きたい、また、今後はクロス集計についても頂きたいと思います。特に最初の方の集計では、利用状況については人口から保育園の利用状況を単純に計算してみても同じくらいのパーセンテージが出るので、これだけでは意味が無いと思います。また、例えば理由について、今の段階で「保育所を利用している人」と「幼稚園を利用している人」とが一緒になっているので、保育所を利用している人はどうか、幼稚園を利用している人はどうかを知りたいと思います。また、利用していない理由についても、知りたいと思います。</p> <p>アンケートの中身としては、放課後児童クラブの利用しない理由のところ、「その他」のご説明があったのですが、児童クラブへの希望というところでも、順位は4番目ですが「その他」が20%あります。中でもこういった意見が多いという傾向があるのか、雑多であったのかということが知りたいです。</p> <p>それから、前回の会議で2回目の議題として、教育・保育の見込みの設定が挙げられているのですが、アンケートを行うということなのか、次回に残すということなのか、ということをお伺いしたいです。</p>
会長	<p>ありがとうございました。事務局の方から回答をお願いします。</p>
事務局	<p>まずアンケートについてですが、資料1-3が、アンケート調査票で、今日お渡ししたのが、資料1-2が調査結果の概要です。アンケートは12月18日までの14日間で実施しましたが、遅くまで回答が戻ってくるという状況があり、本日の概要は1月31日までの回答の集計とさせて頂いております。そのため、アンケート結果の報告が間に合わなかったところが正直なところでございます。アンケートの集計については、今後、成果物を会議で順次お示ししていくと共に、最終的には公表していきます。</p>

事務局	<p>また、第二次のアンケートを実施するかというご質問を受けたような印象もあったのですが、アンケートについては一旦これで終わりということになりますので、このアンケートについて、順次全ての項目について公表していくと共に、必要なものはクロス集計を行っていきます。また、クロス集計等でもう少しこのような数値が知りたいという希望がございましたら、ご意見等頂きながら進めていきたいと思っております。</p> <p>それから、見込み量ということですが、子ども・子育ての事業計画について国からスケジュールが出されており、それに沿って進めていくため、当初お示ししております。しかしながら、現状では市の会議の運営等もございまして、若干遅れております。本日は見込み量の検討を出来るような材料、集計が整っておりませんので、こちらについても次回以降ということでご理解頂きたいと思っております。</p>
高橋委員	<p>児童クラブの「その他」についても、分かれば教えてください。</p>
ぎょうせい	<p>「その他」については、大きい%のものについては内容に触れていきたいと思っております。2～3%しかないものについては省略させて頂きたいと思っております。</p>
事務局	<p>本日の説明では参考程度にお伝えさせて頂いたということで、宜しくお願い致します。</p>
会長	<p>ありがとうございました。その他はいかがでしょうか。</p>
高橋委員	<p>資料1-2の2-1(1)④「定期的な教育・保育事業を利用していない理由」で、3番目が「保育・教育の事業に空きが無い」で12.8%となっています。12.8%というのが、幼稚園・保育園を利用していない36.7%に対して12.8%ということなので、全体の4.7%です。市内の12月31日時点での0歳～5歳までの人口4,568人から、事業に空きが無いから入っていない人が215人か216人くらいとなります。</p> <p>幼稚園に入りたくても入れない人が保育所にも入れないか、ということは分かりませんが、保育所で言うと待機児童が非常に大きく取り上げられており、一方でここまで大きな数字を尾張旭市は待機児童として把握していないと思うので、その辺りのところがどうなっているかを知りたいと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。今の件について事務局の方からお願いします。</p>

事務局	<p>「保育・教育の事業に空きが無いから」の12.8%は、今高橋委員がおっしゃったように結構な割合になるという認識を持っております。200人程度の数字になるというご意見もありましたが、まさにその人数が潜在的な人数になってくると思っており、この潜在的な人数を、現在の幼稚園・保育園の利用と合わせてどのくらい見込んでいくかが、この会議での議論だと思います。仮にこの値を最高値と考えると、これよりも少ない数が計画値としていいとも思っておりますが、潜在的なニーズが高いのかもしれないとも思っております。</p> <p>また、5年前に行ったアンケートの数値と比較すると、この部分の数値がかなり上がっているという認識があり、そうした意味では潜在的なニーズ、また3歳未満児のニーズが高いということは感じております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。他に何かございますか。</p>
秋田委員	<p>放課後児童クラブの代表として出席している者ですが、アンケートの結果を学童クラブとして活用していかなければならないとも思っています。また、P7の「放課後児童クラブの利用について」で、利用している方が11.7%で、それ以外の方は利用していません。利用する必要が無いと言いますか、利用しなくても大丈夫という方が90%弱ということに、少し今の世間に求められていないのかなあという実感があります。</p> <p>しかし小学校1年生の壁というものがあります。働いている方も多いという状況があるものですから、10%の人しか利用していないということは、市としての取り組みやシステム的に利用しづらいのでは、ということも少し感じます。</p> <p>そこで②ですが、要望として利用時間を延長するということは、今後社会的にフルタイムで働く上で当然のなりゆきであり、市の方が対応出来ない部分も私達民間の学童が補って補完していかなければならないと思いました。民間の学童の得意分野である、設備を改善することや、指導内容を工夫するということで対応して補っていきたいと思います。</p> <p>今後この情報をどうやって子ども達の為に活用していくかということが、一番大事なことですので、この会議でもっと深く議論して対応したいと思っております。私としては感想を述べさせて頂きました。</p>

会長	<p>ありがとうございました。P7の2-2-1の利用状況のところの利用の有無についてということですが、「利用している」が1割程度、「利用していない」が9割程度ということについて、利用している人は少ないと見るのか、本当は利用したいのだが躊躇されている方がおり、その方も含めて、「利用していない」となっていると見るのかと言うことで、いくつかご感想を頂きました。</p> <p>また、放課後児童クラブだけではなく放課後子ども教室も併せて出している自治体もごさいますが、本市は放課後児童クラブで出しております。</p>
高橋委員	<p>今ご意見があったのですが、自分も学童クラブに関わっていたので、児童クラブ・学童クラブの需要がないことはないと思います。尾張旭市の場合は数的には他の自治体に比べて恵まれている状況があると思いますが、アンケートに就労に関する項目や今後の就労希望があるかという項目、あるいは今後児童クラブを利用したいかという項目などがあり、ここでもっと大きな数字が出るのではないかとはい思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p>
村瀬委員	<p>現在、保育園は最も長い時間で朝7時30分から夜の7時まで預かっています。1年生になったときに同じようにフルタイムの仕事をする場合、児童クラブ以外で、職場の近くの民間の託児施設に通わせたり、学校から行けるような範囲での職場を選んだり、色々工夫されているということも聞いています。市でも保育園で長時間預かっていたら、児童クラブも時間を長くしていくということが急務かなと思います。</p>
会長	<p>児童クラブは6時までですよ。</p>
村瀬委員	<p>6時では働きづらいというお母さん達が沢山いると思います。長くしていけたらと思います。</p>
会長	<p>先程の利用しない理由にも関わる事かと思いますが。時間が短いということ、あと3年生までということについてはどの自治体でも課題ですね。他はいかがでしょうか。</p>
高橋委員	<p>児童クラブについては延長を考えられているということですが、保育園も含めてニーズを調査していくと、もっと遅くもっと遅くという意見が出てくると想像しています。それに答えていくと、どんどん延長時間は遅くなっていくと思います。そういった流れが本当に子どものためによいのかということはい思います。</p>

高橋委員	<p>一方では、ワークライフバランスということも言われていて、育児・介護休業法も何年か前に改正されています。親が早く帰れるような施策といったことも考えて欲しいと個人的には思います。</p>
会長	<p>参考資料1のP42の中の19でワークライフバランス関連から「子どもと共に家族で過ごす時間」といったことが示されており、ここには親目線で書いてあるのですが、子ども目線からしても、この一項目というのはとても大きな意味があると私は思っております。</p> <p>ニーズとリクエストは少し違うと思っております。リクエストという意味ではどんどん出し、ニーズは子ども目線から、親のリクエストとどう折り合いを付けるかということかな、と思っております。何時までの保育が必要ですか、という質問に遅ければ遅いほど良いとか、土曜もやってくださいとか、日曜日も長時間やってくださいとか、リクエストがどんどん高くなっていく可能性がある中で、ニーズとして本当はどうか見極めつつも、就労を諦めるとか、職を辞めざるを得ないとかいう事態は避けたいといけないと思っております。</p> <p>また、ニーズ量調査については、尾張旭らしい数値になっていくといいなと思っております。漠然とした見方なのですが、先走り過ぎると何かしら置き去りにされるものがあると思っております。両立支援はとても大事だと思っております。</p>
加藤委員	<p>ニーズ調査を行っており、国も4月にならないと数が出てこないと思っておりますが、様々な所から話を聞いて思っているのは、少子化が進み、女性の就労が増え、正規雇用ではなく非正規雇用が増えているという見通しがある中では、制度が変わり、増やすものだけ増やして、何十年か後には施設はあるけれども、その施設の縮小や撤退等が大きな課題としてあると考えています。自分の施設がどういった方向に動いていくか、尾張旭市全体として保育所をどうしていくのか、またその見通しがあるのかということとは民間一園として気になるところです。</p>
会長	<p>何か事務局としてご感想があればお願いします。長期の見通しはどうか、ということについてです。</p>

事務局	<p>公立、民間さんの力を交えてやっけていかないと保育は成り立たない訳でありますけども、本市の場合、現実問題として待機児童が多数発生している段階で、どう待機児童を無くしていくかは本当に喫緊の問題であると思っております。本市はこれまで待機児童対策として民間の保育園を誘致したり、保育園を改修して定員を増やしたりということを実施しておりますが、それでも需要がどんどん増えて待機児童が一向に無くならないという状況で、まさしく施設は誘致してどんどん増やしたけれども将来的な見通しというものは分からないといえます。</p> <p>今回のアンケートで潜在的なニーズを把握しつつ、どこまで整備したらいいかを皆さんの意見を踏まえた上で市としてどうしていくか判断していきたいと思っております。また、頑張っている民間さんには補助・援助して保育を進めていきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
小川委員	<p>「子育てに関する日頃の悩み、気になること」の複数回答で、個々のパーセンテージは低いのですが、就学前では半分以上「時々子どもの世話をしたくなくなる」とか「子どもとの接し方に自信が無い」とか「気づくと子どもに手をあげていることがある」という虐待のような、少し心配な項目がいくつかあります。就学後でも4割近くがそういった方達ということで、もちろん施設の整備も大事ですが、子どもを育てる母自身への支援はもちろん、施設に従事する人達の子どもへの関わり方などの維持、向上が大事だと感じております。</p> <p>保育園に預ける時間が長くなれば、子どもの様子など保育士から得る情報も多いです。初めて子育てをするお母さんへの具体的なアドバイスは預けている保育士からすることが多いですし、アンケートの中の子育て支援サービスの利用方法が分からない、色々な機関と関係を持ってご紹介された、などでキーパーソンになるのは保育園・幼稚園等の施設に従事している方になるため、そこが上手く連携していければ良いと思いました。</p> <p>子育てには知識も要るため、支援施設、保育園・幼稚園に入った後、関係職種の人たちとの地域子育てが上手くいくような仕組みがいるのではないかと感じました。</p>
会長	<p>支援する側の質の問題がありますね。</p>

事務局	<p>施設だけでなく、子育ての環境は非常に大切だなと思っております。驚いているのが、「子どもを叱りすぎている」という回答がとても多いことです。保育園に預ければ大丈夫なのではなく、保育園から帰って来た時に自信を持って子育てができる環境が必要だと思っております。</p>
竹門委員	<p>内容的にはお母さんに寄り添う部分が多いと思います。今現在子育てをされている方が、どのように解決されているのかが心配です。そういった部分について、子育て支援の環境作りに関する施策についての設問から、尾張旭市らしい施策を考えて頂ければいいと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。これは就労の有無に関わらず、全ての親に共通してのことですね。数字で出てきた状態について、親はどのように解消しているのか、解消出来ていないのか、事務局のほうで何かありますか。</p>
事務局	<p>未就学・未就園のお子様対象としては、保健福祉センター4階に子育て支援センターがあります。今日は個別の項目のアンケート結果が手元には渡っておりませんが、支援センターを知っていますか、という項目で、知っていると答えた方が87%、その内、利用したことがあるという方は6割近くでした。支援センターには保育士もおりまして、お子さんを遊ばせて頂きながら相談に乗ったり、他のお母さん達との友達作りをしたりということで、関係づくり、仲間づくりという意味でのサポートもしております。</p> <p>また子育て支援室の子ども・子育て相談は、子どものことで困ったら、まずはここに相談してね、というコンセプトで作ったところですが、こちら65%近くの方が知っているとご回答頂いておりますが、相談される方は10%いかないくらいですので、もっと上げたいと思います。</p> <p>それから尾張旭市の場合、広報誌を見て頂いているという思いがあります。幼児2人乗り自転車の引き渡しや補助金制度、研修会等について、広報を持って窓口にきてくださる方がいます。つい先日ファミリーサポートセンターについても特集ページを組んで掲載を致しました。</p> <p>来年度については保健センター以外の、藤池、茅ヶ池、レイモンド庄中保育園などの地域の子育て支援センターの利用も増やしていきたいと思い、ホームページ、広報誌、子育て応援メール、口コミ等で皆さんにお伝えしていきたいと思います。</p>

事務局	<p>相談についてはできればフェイストゥフェイスで行えたらよいと思います。</p> <p>また、児童虐待に繋がるような、心配な回答がアンケートの中にあるということについては、子育て支援室の方で児童虐待防止の連絡協議会を設けており、モニター機関として、保育園、児童館、小学校、中学校の方々から、心配な場合はこちらに連絡を頂いており、色んな側面から情報共有を図る関係づくりに努めているところです。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
小川委員	<p>虐待予防の視点で、声として大切にしていればよいと思いを申し上げました。</p> <p>取り組む重要度の高い施策の中では、虐待予防を挙げる市民は8.7%ですが、ニーズとしてはやっつけていかなければならない、とても大切なことだと感じます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。資料のP4から、「非常に不安や負担を感じるという人が」10%位、「なんとなく」という方が43%で大体53%位の方が不安や負担を感じています。あまり感じていないという人、全く感じていないという人も沢山いる訳ですけども、P5の日頃の悩み、気になることというのは、790人の方がこれには回答されています。悩み、不安や負担感があるか直接聞かれると、そんなにないと思われるかもしれないけれども、「こういうこと気になりますか」と聞かれると、何となく丸を付けてしまうというところがあるようです。</p> <p>「非常に不安と負担を感じる」、「なんとなく感じる」、「あまり感じていない」という3つの層に分け、次の設問とリンクすると理解出来るかかもしれないと思います。次の計画に盛り込めるかどうか分からないのですが、すごく深刻な層に提供しなければならないことと、そんなに深刻ではないかもしれないけども、こうやればもう少し子育てが楽しくなるのではないか、ということの両方の面で必要かと思ったので、そういう数値をもし出せるのであれば是非知りたいと思います。可能であれば宜しくお願いします。</p>
ぎょうせい	<p>就学前児童に関しましては、問31と32でクロス集計を作ります。</p>
事務局	<p>今回は概要だけで申し訳ありませんでしたが、次回はもっと詰めようと思います。</p>

会長	次の議題にうつりたいと思います。それでは議題2の保育教育区域の設定について、事務局の方からご説明と、それからご提案ということになるかと思いますが、宜しくお願い致します。
事務局	(資料2により説明、保育教育提供区域を市域全体で提案)
会長	ありがとうございました。事務局から区域を1つとするのが良いのではないかと、というご提案でした。市の状況についてでも、もう少しニーズを細かく把握した方が良いのでは、1つの区域では問題があるのではというご意見でも結構ですので、何かあればご発言いただけますでしょうか。
高橋委員	<p>個人的には、小学校区ぐらいが良いのではという思いがあります。尾張旭市の場合は市内全域を1つとしたいという提案だったのですが、その理由の1つが、小学校区単位では少し人数が少ないところがあるということだと思います。ただ、場合によって他の校区とセットで考えていくということも出来るのではないのでしょうか。保育所・幼稚園ということで言うと、車の送迎が多いと思うので全域でというのも分かりますが、全部が全部そうではないと思います。</p> <p>例えば保育所に限って言えば、基本的に自宅に近い、職場に近いということをまず考えますので、できれば小さな区域で調べていただきたいと思います。瀬戸市は中学校区で話が進んでいるようですが、中学校区で0～5歳までの子の数は、1番多い南山が1,674人で1番少ない本山212人と、7,8倍の差があります。尾張旭の場合はどうかというと、小学校の児童数でしか分からないのですが、1番多いのが城山、1番少ないのが瑞鳳で、半分くらいのような感じです。割合的にはそんなに極端に違いがあるとも思えません。</p> <p>次の理由ですが、中学校単位にすると、小学校から中学校に分かれてしまう子がおり、児童クラブ等のニーズの把握がしにくいと思います。しかし逆に市全体に広げたら、意味が逆という思いがあり、小学校区でないとならば調べられないと思います。また、子育て支援、子ども支援を考える上で、地域との関わりについて考えるべきではないかと思っています。町内会であるとか、自治会も含めて、やはり校区単位が関わりが持ちやすいのではないかと思っています。それから、尾張旭市は全校区に児童館があります。児童館で就学前のお子さんのお母さん達をサポートするような事業も行われているので、連携ということも踏まえても、私は小学校区が良いのではないかと考えています。</p>

会長	ありがとうございました。1つの区域ではなくて、小学校区や小学校区を合わせた区域にした方が良いのではないかとのご提案でした。
高橋委員	瀬戸市は計画の中で中学卒業を対象として捉えています。尾張旭市はこの計画で何歳までを対象としているか教えて頂きたいです。
会長	何歳までを視野に入れて作る計画なのか、事務局の方からお答え頂いて宜しいですか。
事務局	次の議題にも繋がりますが、おおむね18歳でどうかと考えております。次世代計画の今後の部分も引き継ぎつつ子ども・子育て支援に特化した部分の計画も併せ持った、子ども・子育てに関する全体計画としたいと考えているからです。
会長	尾張旭市は児童福祉法の対象になる18歳まで網羅するということですね。
高橋委員	年齢について特に希望はありません。
会長	その前の部分、小学校区が良いのではないかと、というご提案の根拠として、最後から2枚目の設定理由が理由にはならないのでは、というご感想がありましたが、事務局から何かありますでしょうか。
事務局	<p>近隣の状況を若干お伝えさせていただきます。</p> <p>瀬戸市は、今委員さんがおっしゃったように、中学校区8区で計画しているとのこと。市域については、111.61㎡で本市の5倍程度です。人口については、本市の2倍はございませんが、13万人の都市です。全体の地理的な部分で中学校区で考えているのかと思います。</p> <p>犬山市は、市域が大体75㎢位、市域を1つとして考えております。</p> <p>江南市は本市よりも大きく30㎢です。人口は10万人程度です。こちらも市域は1つで考えております。</p> <p>岩倉市は本市よりも小さく、実施地域も小さいです。市域は1つと考えております。</p> <p>豊明市は、23㎢程度、概ね人口7万人程度ということで本市と似ておりますが、こちらも市域は1つで考えております。</p> <p>日進市、こちらは本市よりも市域、人口共に大きくなっております。中学校区で考えているということです。</p> <p>長久手市は、市域を1つとして考えているようです。</p>

事務局	<p>春日井市は2～3の中学校区をまとめて7校区くらいで考えております。概ね瀬戸市と同じくらいの市域で人口規模は30万人程度の中核市です。</p> <p>県内の近隣を見てみますと、市域1つで考えているという区域が多いという状況でございます。委員さんのおっしゃる通り、今回の子ども・子育て支援事業計画においては幼児期、特に保育園、幼稚園、放課後児童クラブの利用人数を吸い上げて施設を整備していくということでございます。</p> <p>当然、身近なところでサービスを受けられるということが基本になるかと思えます。例えば放課後児童クラブであれば、小学校区に対してどういった数量が必要なのかという積み上げをしていく必要があると考えております。</p> <p>現在の保育園利用状況ですが、資料2に市内の幼稚園、及び保育園の配置図と学校教育施設位置図がございます。こちらを見合わせて頂きますと、中学校区を縦に割るように3中学校区に分かれております。幼稚園については、中央部、名古屋寄りの方にございます。保育園については若干中央部に寄っているようです。</p> <p>本市の保育園を利用されている方は、当然地域の近くの方が沢山利用されております。しかし地域を跨いで利用している方も相当数の方がおり、考えあわせますと今回の計画においても小学校区で積み上げる必要があるかと思えます。</p> <p>しかし、サービスや認可基準について、余りに細かくしてしまうと融通が利かなくなってしまうことが懸念されます。近隣市とのバランスから行きますと、本市については市域1つがいいのではと今回ご提案させていただきます。</p>
会長	<p>細かく割ったが故に小回りが利きにくくなるという側面もあるというご説明でした。柔軟なサービスの提供ということ考えると、当市の規模だと1つの方がやり易いのではないかと思います。校区割りにについては決めたら5年縛りとなり、2年後にやり直すということは出来ません。委員の皆さんの意見を頂きたいと思えますが、いかがでしょうか。</p>
秋田委員	<p>小学校区で割った方がきめ細やかな対応が出来るかもしれないのですが、先程ご説明頂いたように、市として動きやすいようにするか、というところで考えると、やはり1つでまとめた方が良いと思えます。</p> <p>また、細かく割ってしまうと、統制が取れなくなってしまうかもしれないことから、1つの方が良いと思えます。</p>

会長	他にはいかがでしょうか。
村瀬委員	校区毎で幼稚園や保育環境も変わると思います。無理がなければ大きい方がよいと思います。例えば大きな幼稚園が2つあるなど、どちらでも選べるような環境など、こだわらない方がよいのではないかと思います。
会長	他にはいかがですか。幼稚園については半分とはいきませんが、かなりのパーセンテージが市外の幼稚園を選んでいきます。 今、村瀬委員がおっしゃったことを考えると、1つの方が柔軟に出来るとも思うのですが、加藤委員はいかがですか。
加藤委員	意見という程ではないのですが、幼稚園は私的契約ですので、そういった状況ができています。保育所の場合は4月当初から定員いっぱい園と定員割れの保育園とあります。こんな狭い市でも、そういう状況があることにはあるというのが率直な思いです。ただ、だから割った方がよいといった意見はありません。 法律が変わる中で保育園も競争になっていく可能性が高いと思いますが、区域は1回決めたら5年間ということなので、決めなければいけないと思います。
会長	小川委員はいかがですか。
小川委員	規模の差があり、1つの方が柔軟に動けるように感じます。
会長	長谷川委員はいかがでしょうか。
長谷川委員	広くした方がよいのか、狭くした方がよいのか、ちょっと判断ができません。
会長	先程ご紹介頂きました近隣の市も、絶対多い方がよいということで、決めたかどうかは分かりません。かつてないことをやる訳で、よく分からない部分もありますが、サービスを運用していく時にどちらの方がメリットがあり、デメリットが少ないかということで考えていくと、広域の市は中学校区で割った方がよい、ということだと思えます。 行政の方の判断は、こういったことを立ち上げてやっていく時に本市くらいの規模だとおそらく1つの方が上手くいくのではないかという背景があったのではないかと思います。大方の感じとしては1つがよいかなという感じがしますが、やはり1つよりもこちらがよい、というご意見があればおっしゃって頂ければと思います。

高橋委員	<p>説明を聞いて改めて見ているのですが、設定する区域は特に保育所・幼稚園の両方と児童クラブ、学童クラブの需要に対して必要な事業を行う為の区域割りということなので、児童クラブについて別途ご配慮頂けるというものであれば、市域全体でも良いと思います。</p> <p>この会議は待機児童を解消していくことだけを話す場ではないと思いますし、子育ての不安に対してどのようなことをしていくかといったことについては、逆に細やかに動いていく必要があると思います。この区分けについては言われてみれば市域全体で良いのかなと、思い直しました。</p>
会長	秋山委員はいかがでしょうか。
秋山委員	色々お話を伺っていて、全体でやるか、割ってやるか、どちらもメリット・デメリットはあると思いました。ただ、先程近隣の市町村の状況を報告頂いて、広さと人口の数で判断されているのではと感じましたので、私個人としては尾張旭市の今の人口や広さに応じて考えるとすれば、ご提案の市域全体でまずやってみるといったのが良いのではと思いました。
会長	<p>大方の意見は1つとお聞きしましたので、1つということで結審させて頂くということでどうぞ宜しくお願いいたします。貴重なご意見沢山頂きありがとうございます。</p> <p>では最後の議題にうつります。子ども子育て支援計画のイメージについて事務局の方からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	(資料3により説明)
会長	<p>ありがとうございます。ただいまの事務局からのご説明について、何かご質問があればお願いいたします。</p> <p>基本指針の概要は今回付けていただいたものですか。</p>
事務局	参考資料2が、基本指針の概要(案)です。骨格となる概要案で、これを基に基本指針の案が出来ておりますので、また次の参考資料としたいと思います。
会長	<p>資料3の下の二重線の囲みの部分のご提案ということで、次世代がもう5年、法律は10年延長しようということですので、整理しつつ一体化させたデザインでいったらどうかということです。こういう方向性で宜しいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>ありがとうございます。では、ご提案頂いたデザインで今後は進めていくということになりました。ありがとうございます。</p> <p>それでは次第の3、その他について、事務局の方で何かありますか。</p>

事務局	(参考資料 1, 2 により説明)
会長	<p>ありがとうございました。その他は何かありますか。公定価格もまだ確定しませんので、新しく園児を募集する施設は価格が提示できませんね。公定価格については、5月くらいに提示されるかもしれませんね。</p> <p>国の方の動きが遅れていますが、子ども・子育て会議は開いて支援事業計画を作らなければなりませんので、よろしく願いいたします。これで議論の方は終わりにさせていただきます。本日はありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、第2回尾張旭市の子育て支援会議を閉会させていただきます。次回のことについてお願いします。</p>
事務局	(次回会議 (3月19日) の案内)
会長	これをもちまして本日の予定された議題全てを終了とさせていただきます。ありがとうございました。